

# PHD LETTER

## 78

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

2001・3

- 古参職員藤野に聞けーサウエーさんの豚の巻 …… 3 P
- 研修生レポート …… 4-5 P
- タイスタディツアー報告 …… 6-7 P

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄  
編集人：藤野 達也  
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3  
元町アーバンライフ202  
TEL(078)351-4892 FAX(078)351-4867  
e-mail：phd@po.hyogo-iic.ne.jp  
定価：100円



ここは動物園ではありません。  
北タイのカレンの村。  
そして、この象はペットではありません。  
荷物を運ぶ働く象。  
今朝は水浴び。  
背中が広いからお世話も大変。

タイ、メーホンソン県、バンペー村 撮影：FUJINO T.

1981年NGOという言葉は一般的ではありませんでした。

国際協力を継続的に行う民間の団体の数も少なく岩村昇医師の呼びかけは多くの方に届きPHD協会がスタートしました。

この20年にPHD協会は10カ国から70人の研修生、73人の短期研修生、58人のゲストを招き、交流してきました。この間アジア・南太平洋地域の状況も日本の社会の様子も変わりました。国際協力、ボランティアという言葉も日常的になってきて、それはそれで好ましいことなのでしょう。

しかしこうなると看板だけでなくその中身が問われているのではないのでしょうか。

2001年度PHDは20周年を迎え

## 20周年をこう生かしたい

ます。この節目を単なる記念に終わらせず、PHDの活動がより充実した国際協力になるように活用したいと考えています。丁寧に20年をふりかえることによってこれまでの事業を評価し、課題を洗い出すことに重点をおきます。いきなり新しい方針を打ち出すのではなく新しい段階への土台を固める、そんな一年にしたいと考えています。

20年を考える事業のピークは10月6日、7日の神戸での集会です。プログラムの中心は以前の研修生の代表を数名招いての、帰国後の活動の報告です。それをもとにこれからの研修のあり方、フォローアップのあり

方を皆さんとともに考えます。

また20年というニュース性をいかして、マスメディアにもお願いし、この機会にPHDの名前と活動をさらに多くの方に知っていただき、支援者の獲得につなげたいと思います。会報も20年特集を増刊号で発行します。

今から日程をあけておいていただき10月6日、7日はぜひ集まって下さい。

この記念事業をすすめていくために実行委員会を作り、準備をします。こちらに加わって下さる方も大歓迎です。

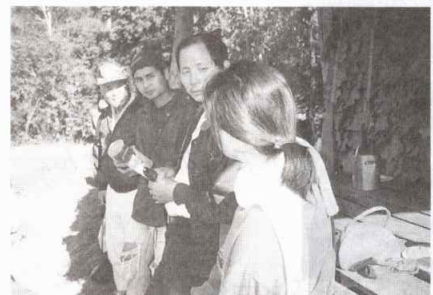
皆さんの力で20周年を盛り上げていきたいと思っています。

### 東西南北 問題解決 取組日記

総理事代行  
藤野達也

12月X日

スタディツアーの引率で北タイへ。チェンマイから山道を車で6時間かかるブラチャックさん(98年度)の村ムシキーでびっくり。この奥の村に台湾資本の人間が野菜栽培の可能性を探るために、試験栽培を村人と組んで始めていた。技術指導者はタイ語、カレン語ができないのでタイ-台湾語の通訳の女性も一緒にいる。



手前から、通訳の女性、台湾人の指導者、ブラチャックさん

ここに来る道の手前の村、ボックオ(チェンマイから2時間)でイチゴを中心とした換金作物中心の農業がすすんでいることは76号でお伝えした。さらに奥にも町の資本、海外の資本が入りつつある。この土地、気候に作物が合うことがまず必要だが、

販路は確保される。大いに収入向上の期待がかかる。しかし資本家の下請けとして働くプラス、マイナスの判断の難しさや農薬、化学肥料を使うことによる問題も予想される。選択は村人がするわけだが、注意深くフォローしていきたい。

2月7日

大阪国際交流センターで「パシフィック・ウェイの共有〜21世紀における太平洋国家の連帯」という会議があった。2000年4月に宮崎で開催された「太平洋・島サミット」での合意を実現する一歩としての会合である。クニオ・ナカムラ前パラオ大統領、カミセセ・マラ前フィジー大統領、マイケル・ソマレ元パプアニューギニア首相などを招いて2日間の会議。PHD協会に政府レベルの会議の声がかかることはめったにないが、太平洋地域で活動するNGOからの発言を求められ今井理事長がパネリストとして参加した。地域間協力、連携についてPHDの活動から発言をした。2日目はパプアニューギニアからの研修生リンダさんもでかけ、元首相にあいさつし、昼食も共にした。なんとリンダさんとマイケル・ソマレ元首相は出身高校が同じでPHDが対象としているフィンチャーフェン地域はよくご存知で話が弾ん

だ。思わぬ関係にびっくり。



2月14日

バレンタインデーの今日、ウチは理事会、評議員会。毎年この日に合わせて年度の事業、財務状況をふり返り、新年度の計画と予算をたてる。研修、啓発、総務の三部門を年度はじめにたてた計画とつきあわせ、目標の達成状況をみる。職員の見解だけでなく、支えていただいた会員、協力者の皆さんの意見もそこに反映させる。そして新年度の計画を作っていく。新年度は20周年という節目の年でもある。通常の事業に加えて、この機を生かす事業を加える。20年やっていると毎年毎年そんなに大きな変化があるわけではないが、研修では交流する地域をさらによく知るための調査とそこを支える現地カウンターパートとの連携強化、啓発では各プログラムにこれまで以上のボランティアの参画を図ることがあがり、理事会でもその方針が確認された。

## “古参職員フジノに聞け!”

—— 第4回「サウエーさんの豚」の巻

編集部(以下編): 前回休みでもうおしまいかと思いましたが。

藤野(以下フ): えらいすいません。私というより紙面の都合だったんですが。

編: それはさておき、前回の「コマさんのイチゴ」は興味深く、難しいテーマでしたね。

フ: あのケースだけでなく、開発、発展というものを何をもって計るか、何が住む人にとって幸せをもたらすのか、今だけでなく先のことも考えて道を選ぶのか、それを誰が決めるのかという点を、技術・知識の普及、向上や仲間をつくり組織だてて取り組んでいくことと並んで考えていかねばならないと感じています。

編: 技術の修得や、住民の組織化だけでも楽ではない上に、今、言われたこと、開発協力って大変なことですよ。

フ: 要するに人と人がからんでいくところをどうしようかということがテーマですから、簡単じゃないですよ。同じ人でもいつも同じ考えじゃないことだってある訳だし、その上で違う人が集まってひとつの社会や地域を形成しているわけですから。

編: さらにそれが自然条件やその国の政治とどう対応していくかもありますよね。

フ: そう、特にアジア・南太平洋地域の村の人の仕事である農業は、自然条件に左右されることが多いですよ。今来ているノパドンさんの村の東北タイですが、雨季以外は水に困ってる。だからといって雨を降らす研修というわけにいかないし。

編: 雨乞いの儀式でも教えたらどうですか?

フ: で、乾季にも農業用水を手に入れようと思えば遠くの川から大工事で水を引っぱってくるのかという話にもなるのだけれど、それは村人の力の範囲を超えてしまう。水に困っているのは東北タイ全域だから、川から水を引くにも限度がある。

編: で、乾季はあんまり働かないと。

フ: それはそれで筋が通っているんですけど、一方で町から商品が入ってくるし、お金はいる。農家なのに野

菜を市場で買っている。そのお金はどうするの。村には工場などの勤め先はないから借金やら出稼ぎに行く、という流れがあるわけです。

編: ノパドンさんとこの村は一昔前は養豚でと張り切ってんじゃないですか。

フ: そう10年前、サウエーさんが日本に研修に来てたころは、年間通した現金収入策として、豚に期待がかけられ、だから彼にも養豚中心の研修を組んだんです。ところがタイ政府が国内より安い豚を外国から輸入する方針になって豚の計画はつぶれてしまい、それを支えにしていたこの村の農業グループも実質的に解体してしまったのです。

編: 今度は政策ですね。

フ: タイの消費者からすれば、肉が安く買えた、いいじゃないということになる。

編: 日本でもある話ですよ。

フ: その通り。戦後農業より工業とか商業で経済を発展させてきたから、国内農業にしわよせがいった。しかも多くの日本の人は農業以外で生活しているから、安い農産物大歓迎なわけですよ。だから大きな反対運動にはならない。

編: タイの村だけの話じゃなくなって、日本の農業のあり方も気になってきますよね。

フ: どうもそれがPHDの取り組んでいることなのではと思っています。タイの農村を良くしようと考えていくと、それは私たちの暮らしのありようにもつながってくる。というか、つながりが見えてくる。研修生を迎えることによって、国と国というより、人と人とのつながりが見えてくる。そしてそこにいいことばかりじゃなくて、しんどいこと、つらいこともあることがわかる。それをどう解決していくのかをそれぞれがそれぞれの場で考え、取り組む。以前は問題は自分のところだけであって、自分だけでなんとかせよと思ってたのが、つながりが見えてきて、お互い勇気づけあい、知恵も交換し、取り組むことができるようになった。ここが草の根の交流の意味じゃないかと思

ます。

編: 理屈はわかるんですけど、じゃあこの東北タイの村とどうつきあっていきますか?そして日本は?

フ: 簡単に答えがあれば、もう解決してますよね。この村のグループの中心人物で短期研修生だったバムレンさんは村レベルの取り組みだけでは聞えないと、今はタイ全体の農民運動にかかわって、政府の農業政策に対抗しようとしています。これもひとつの道だと思います。

私達は村の人に何かお手伝いをしたい。雨を降らすことはできない、水路をひくことも難しい、豚もだめ、だから降参ではなく、何か他に手はないか。

村の人はあまり野菜を作ってこなかった。でも食べる分は買ってくる。なら少ない水を上手に使って野菜作りを広げたらどうか。仲買人が強くて、生産物を買叩かれる。なら自分たちで市をたてて売ってみたらどうか。野菜、化学肥料を大量に使う農業になっている。それなら堆肥を作って田畑に入れてやり方を変えていく。出稼ぎに行った人がみんな成功するわけじゃないこともわかってきた。だったら、村でがんばろうよ。それは一人一人だけでは難しい。だからもういっぺんグループを立て直してやってみようよ。というわけで、グループの活性化を期して9年ぶりにノパドンさんを研修生として迎えたわけです。

一方で日本の方が実はもっと大変なのかもしれません。とりえず今は食べているし、先のことなど自分の力じゃどうにもならないと考えてるから、無関心。情報が多すぎて、何が大切かわかりにくくなっている。だから逆に日本のことばかりみていないでアジア・南太平洋の村の人たちと交わってシンプルで大事なことに気づくセンスを教えることが必要だと思います。日本の中にも大切なことに気づいてる人たちがいます。そんな人たちとつながることで、日本もまだ変えていけると思っています。

前回のイチゴから、今回は豚の巻でした。20年の積み重ねの中にはまだまだ興味深い話がありそうです。

## 18 期研修生レポート

(2000. 10 月下旬～

2001. 2 月下旬)

アフダールさん

(インドネシア, 32 才)

—農業研修—

11. <鹿児島県始良郡>市川克久  
(かごしま有機生産組合/大和田志人)
12. <熊本郡中種子町>浦辺誠
13. <養父郡八鹿町>但馬農業高校
14. <豊岡市>西沢泰裕
15. <小野市>ふえろう村塾
16. <明石市魚住町>南兵庫クボタ土山支店  
(アレンジ: 兵庫県社農林事務所/平尾栄治)  
(敬称略)

ノバドンさん (タイ, 25 才)

—農業研修—

9. <氷上郡春日町> 中野宗嗣
10. <小野市>ふえろう村塾
11. <朝来郡和田山町>大森昌也

リンダさん

(バブア・ニューギニア, 22 才)

—農業・洋裁・保健衛生・保育研修—

(アレンジ, 滞在先)

9. <氷上郡氷上町> 吉田吉彦
10. <朝来郡和田山町>大森昌也
11. <氷上郡氷上町> 吉田吉彦
12. <小野市>ふえろう村塾
13. <芦屋市>芦田安紀子
14. <明石市>足立則子
15. <西宮市>はらっぱ保育所

ブンシーさん (タイ, 20 才)

—洋裁・保健衛生・保育研修—

(アレンジ, 滞在先)

14. <芦屋市>芦田安紀子
15. <高砂市>ステップハウス  
(神吉道子, 樋野泰弘・素子)
16. <芦屋市>芦田安紀子
17. <神戸市北区>鴻谷美江子
18. <三木市>高橋武子  
(平田美智, 吉田知子)
19. <芦屋市>芦田安紀子
20. <神戸市北区>鴻谷美江子
21. <三木市>高橋武子 (吉田知子)

東日本研修旅行

<福井県>美浜北小学校~美浜東小学校~  
光照寺~美浜原子力発電所~ゴミ処分場~  
<愛知県>宝泉寺/アユス東海~トヨタ  
自動車労働組合~中京大学~<東京都>  
梅ヶ丘教会~<神奈川県>PHD鎌倉交流  
会~<東京都>全日本自動車産業労働組  
合総連合会~米山記念奨学会~アユス=仏  
教国際協力ネットワーク~真如苑~<山梨  
県>澤登早苗~甲府カトリック教会~山梨  
英和学園~<長野県>塩尻めぐみ幼稚園  
~松本教会~ソロボチミスト高山~新宮小  
学校~PHDひだ友の会~<岐阜県>ソロボ  
チミストかかみ野~中濃教会~小牧幼稚園

西日本研修旅行

<宮崎県>西都ロータリークラブ~<鹿児島  
県>出水市民講座~出水小学校~東出水  
小学校~<熊本県>水俣病センター相思社  
~<大分県>下郷農業協同組合~<福岡県  
>福吉伝道所~庄内町生活体験学校~祝町

小学校~旭ヶ丘会館~<山口県>あい・ネ  
パールの会~梅光女学院高等学校~<広島  
県>広島YMCA~共生庵~三良坂小学校  
~日影館高校~三良坂小学校PTA~<愛  
媛県>ホワイトハウス~丹原小学校~田野  
小学校~松山古町教会~松山東雲短期大学  
~<香川県>多度津教会~豊島自治連合会  
~<岡山県>南北ネットワーク岡山~JA  
岡山岡山西宮農生活センター~高松農業高  
校~備南ロータリークラブ

共通研修

<兵庫県>淡路島モンキーセンター~山口  
勝弘~明石協同歯科~<大阪府>釜ヶ崎キ  
リスト教協友会~<兵庫県>JA六甲本野  
一郎

## 日本の山には木があった

「私が日本に来て一番驚いたのは、日本の山にたくさん木があったことです。私は日本にはもう木がないから、わざわざパプア・ニューギニアまで来て木を切っているのだと思っていました…」

昨年の夏、リンダさんは林業体験合宿「枝打」に参加しました。その参加理由の一つは、上記の疑問に対する答えを見つけるため。農林事務所の職員さんや参加者の方々との勉強会を通じて、産業として成り立たなくなっている日本の林業の現状を学びました。そして、問題の根が予想以上に広く、深く、複雑に絡まりあっていることを知ったリンダさん。



間伐作業をするリンダさん(兵庫県篠山市)

「私の国で木を切った方が安く手に入るということは分かったけれど、それはおかしいと思います。私に何ができるかは難しいけれど、村に帰ったら、村の人たちと一緒に木を大切にするようにしたいです」

私たちも日本に住む一人として、いったい何ができるのであろうかと考えさせられました。

## 初めて豊島にも行きました

今年度も、東日本・西日本研修旅行の折には、たくさんの方々のお世話になり誠にありがとうございました。おかげ様で大きく体調を崩すこともなく、無事全日程を終えることができました。



カレン伝統の機織りの実演会(東京都梅ヶ丘教会)

研修生たちも、PHDがどれだけたくさんの方々に支えられているのかわかった、と話しています。また、水俣、筑豊、広島、豊島といったところでは、日本の歴史や社会問題を学び、自分たちの村の将来について考える機会を持ちました。以下は、道中研修生たちが語ってくれた感想のいくつかです。

「村に帰ったら、水俣のことを村の人に話したいです。そして、もし村に工場ができるという話が将来持ち上がった時に、村の人たちと一緒にその工場が村にとって必要なのか、良い工場なのか悪い工場なのか、をしっかりと話し合いたいと思います。そして、お金、村の自然、村人の健康…どれが一番大切なのかを考えたいです」



漁師杉本栄子さんのお話を聞く

「水俣ではゴミを20種類以上に分けて捨てているのを見ました。あそこまではすぐにできないと思うけれど、村でもビニールやプラスチックのゴミが増えているので、できるだけ注意して捨てるようにしたいです」

「豊島のゴミのほとんどが兵庫県のゴミと聞いてびっくりした。例え

ば、タイのバンコクやチェンマイで出たゴミが自分の村で捨てられ、自然が壊されるのかと考えると、それはとても良くないと思った。でも、誰が悪いかは難しい。ゴミの会社の人や政府の人が悪かったのもあるけど、町の人がゴミをたくさん捨てるのも良くないと思う」



香川県豊島のゴミの上で

「自分の国にいる時は、日本は他の国をたくさん欲しいと思って戦争をしたから、悪いのは日本だけだと思っていた。でも、広島で原爆の話聞いて、戦争はどっちが悪いとかではなく、してはいけないものだとわかった」

## 帰って役立つことは?

タイ東北部は乾季に水が不足します。それも一因となり、出稼ぎが日常化したタイの中でも最も貧しい地域です。そのような地域の出身であるノバドンさんにとって、農業以外の現金収入の道を確保することは、今後村に定着しながら生活改善に取り組んでいくための必要不可欠な条件です。

「15年くらい前までは田んぼを耕す時、牛を使っていたけれど、今では耕運機を使います。村には全部で20台ぐらいあります。けれど、壊れた時に機械がわかる人、村に一人しかいません。その人も溶接はできません。エンジンがわかりません」

こうしたノバドンさんの村の状況を踏まえ、昨年の10~11月にかけて農機具の修理やメンテナンスの研修を行ないました。1ヵ月間みっちり基本から指導していただき、なんとかバラしたエンジンを組み立てられるまでになりました。指導者の方々からは「経験を積むことが一番

大切なので、帰ってから機械を触りつづけることが大事でしょう」とアドバイスをいただきました。



江府町のJA鳥取西部で

年末には、アフダールさん、リンダさん、ノバドンさんが3人そろってくん炭(粗穀の炭)作りの研修を行ないました。

村ではほとんど捨てているという粗穀から、良い肥料になったり、家畜に食べさせたりと、用途の広いくん炭ができることに研修生たちは驚いた様子。「作り方が簡単なので、村でもできます。もう粗穀は捨てません」と口をそろえていました。



くん炭はカンタン!!(和天山町大森さん宅)

ブンシーさんの洋裁研修は大詰めを迎えています。西日本研修旅行中に、ある会員の方からかばんを作してほしい、との注文を受け、2月は忙しい合間を縫ってその製品作りに取り組みました。

何でもあつという間に作ってしまうブンシーさんの課題は、細かい点に注意して丁寧に作ること。売り物を作っていく厳しさを学びました。

## 機械化、近代化とどうつきあう

「日本のサトウキビが見たい」というアフダールさんの要望に応えるべく向かった研修先は種子島。サトウキビの栽培法を教わったり、様々な規模の精糖工場の見学をさせていただきました。黒砂糖を作る過程でのインドネシアとの違いや工夫などを学びました。

研修をお引き受けいただいた浦辺

さんご夫妻からの一言一。

「工場の見学などが多く、機械の便利さを感じたのが良かったかどうか不安です。タベ村の自然を残して豊かに過ごしてほしいです」

これは前号で紹介した西川ご夫妻と同じ感想でないかと思われます。実はPHDにとってもこの点は研修事業を進めていく上で非常に重要なポイントの一つです。

4人の研修生は四者四様の出身地域から来ています。当然近代化の浸透度合いもそれぞれに違っていますし、それに対する姿勢もまちまちです。

例えば、アフダールさんの村に電気がきたのは4年前。2400人の人口に対してテレビが8台、耕運機が4台、といった状況です。これはどの地域でもある程度共通して言えることだと思いますが、一旦電が入ったあとの村の変化の速さは、日本が経験したそれとは比較にならないものがあります。タベ村を例にとると、テレビに続いて入ってきた電気製品が、ビデオではなくDVDでした。

こうして、近代化の波にさらされ始めたばかりのアフダールさんにとって、農業に関しても機械への憧れはある種仕方のないことだと思います。その思いはかなり商品経済が入りこんでいる地域出身のノバドンさんやブンシーさんにも同じようにあるものです。機械が入ると、結果的にはどんどん忙しくなり、お金もかかる農業になっていく、ということの頭では理解できても、その便利さへの欲求を抑えることは難しいでしょう。

PHDとしてこの流れにどのように対応していくのかは、20周年を迎えるにあたって、一度しっかりと整理しなければならない課題だと思っています。つまり、日本の良いところはそのまま吸収してもらい、悪いところは反面教師的に学んでもらう、というPHDのスタンスと、研修生のそれぞれの感じ方や村の状況をどう突き合わせていくのか、といったところを会員や研修指導者の皆さんとも一緒に考えていけたらと思います。

# 19期生が来日します

## アルウィ・ファドリさん

インドネシア・男性・27歳

研修内容 農業

タベ村から3人目の研修生。17期ダスウィルさん、18期アフダールさんの隣の集落、タナンバトゥで農業をしています。

## ケユーン・カヨータさん

タイ・男性・28歳

研修内容 農業

9期生サウェーさん、18期ノパドンさんの村クッタカイから。農業グループの活性化を期待しての招へいです。

## ナロンテッ・カムヌーンバナドーンさん

タイ・男性・19歳

研修内容 農業

16期生サワンさんの村、バンペーからの若者。17期ポーディさん、18期ブンシーさんの村からも近いところです。

## シコン・ドンさん

パプア・ニューギニア女性・22歳

研修内容 保健衛生、栄養、洋裁、農業

15期ハリエオさん、18期リンダさんの村から小一時間のフィオ村の住人。町の高校を卒業後、村に戻り生活をしています。

## ソロモンからの手紙

内戦でその安否が心配されていたソロモン諸島の研修生ルークさん(94年度)から手紙が届きました。和訳したものを抜粋でご紹介します。

2年にわたる民族抗争で手紙を出すことが出来ませんでした。去年の8~11月、全ての外国人は国外へ避難しました。首都ホニアラは武装した人が町を支配し、首相も退陣させられました。国際線航路は停止し、企業活動は止まり、経済はダメージを受けました。2万人がホニアラから

他の島へ逃げました。

私も8月28日に初めて銃声を耳にしました。銃で殺されるだけでなく罪のない人々が不十分な医療、食糧状況で苦しみました。いかなる戦争にも正義はなく、あらゆるものが害を受けました。

その間私は内戦で苦しむ人々を助ける仕事をしていました。ホニアラの施設は常に満杯で、昼夜とも多忙でした。やっと対立する集団の間で平和協定が結ばれ、状況は良くなりましたが、銃器はまだ多く出回っています。

去年の暮れにクリスマス休暇で故郷パライに帰りました。以前お伝えした紙すきのプロジェクトは内戦の影響で中断していました。パライのコミュニティは新しいリーダーが変わりました。林業関連の作業所が接触してきて、そこで働く人々のための建物を建てようとしています。

私は、引き続き学生です。フィールドワークを終えたところですが内戦のため十分な体制がとれていません。今年が皆さんにとって幸せな年になることを世界のあらゆる国々に平和がもたらされることを祈っています。

## プー、バカニョーの村で...

12月23日から1月2日まで北タイへスタディツアーに出かけました。個性溢れる参加メンバーのレポートをご紹介します。

### 気になる存在

1月26日、インド西部で大きな地震があり阪神大震災を上回る死傷者が出た。もしこれが、ほんの1ヵ月前に私達が訪ねた北部タイのカレン人の村であったら、こんな平静でいられるだろうか。誰もが休暇届を出し、すぐさま駆けつけたいという衝動にかられるだろう。それがかなわないなら、知人の安否をなんとか知ろうと奔走し、自分に出来ることはないかと必死で考えるに違いない。

旅行以前には考えられなかった自分の姿。「そこに知人がいる」とはそういうことなのです。今回のタイスタディツアーで私達はたくさんの知り合い(=気になる存在)をタイの国の中に作りました。目には見えないけれど、人と人との確かなパイプ、お互い相手の身を案じ合える関係を作ることが出来ました。それが、この旅行の最大の収穫だったと思います。

(山内道美 / 宝塚市 / 小学校教員)

### 作り手を前にして

カレンの衣装や村の外部に売るために加工された布を研修生であるベ

「プー」はカレン語で日本人を、「バカニョー」はカレン人を意味します。

リポーさん(99年度)の家で私達が見ている時だった。あるカレンの女性が一つのポシェットをしきりに私に勧めるので何でだろうと思っていると、ベリポーさんがそれは彼女が作ったものだ教えてくれた。其の時私は作り手を目の前にして、彼女の生活に直に関係しているのだと改めて実感した。そして自分の織ったものに誇りを持っていると感じた。

(植田道子 / 大津市 / 大学生)

### 日本の「結び」みたい

研修生サワンさん(98年度)の田

んぼの大豆の作付を見ることが出来た。10人余りで取りかかり、2mぐらいの竹の先を尖らせて杭にし、3人ほどが20~30cm間隔にアナを空ける。その中に自分で取った種を5~10粒ずつ入れていき、後で土を被せるのである。私の子供の頃の田植え風景を見ているようであった。自分のところがすんだら次はヨソに手伝いに行くのだそう。

(井上洋子 / 神戸市 / 小学校教員)



### 自分の仕事

村でも、朝まだ薄暗い頃から、大人達は起きだし、食事の準備や仕事に出る準備をする。そして、子ども達も飛び起きて、大人の手伝い、というよりは自分の仕事をする。水を汲みに行ったり、火の番をしたり、何が自分出来る仕事をちゃんと知っていて、それをこなしている。

日本の子どもはそんなことよりも、「勉強」が大事。自分が、どんな事が出来て役に立つかは知らないけど、「今、勉強中」と言うのがどんな逃げ口上よりも効き目があることは知っている。

(杉谷雅美 / 神戸市 / 自営業)

## PHD NEWS

### □会費・ご寄附寄託状況

|       |     |        |             |
|-------|-----|--------|-------------|
| 2000年 | 10月 | 86件    | 12,079,284円 |
|       | 11月 | 276件   | 2,169,827円  |
|       | 12月 | 738件   | 6,160,214円  |
| 2001年 | 1月  | 210件   | 2,435,251円  |
|       |     | 1,310件 | 22,844,576円 |

以上の通り皆様より多くの会費とご寄附を頂戴しました。皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。

### □車を入替えました

昨年9月寿命の尽きたPHDの公

### え、違うの?

私は、途上国の医療や保健衛生に興味があったので、村の診療所を見学しお話を聞きました。感染症が少ないことに驚きました。私の頭の中では、感染症で死んで行く人がほとんどだと思っていたので、意外でした。そして、診療費は患者さんの経済状態を考慮したものになっていると聞き、貧しい人にはいい考えだと思いました。

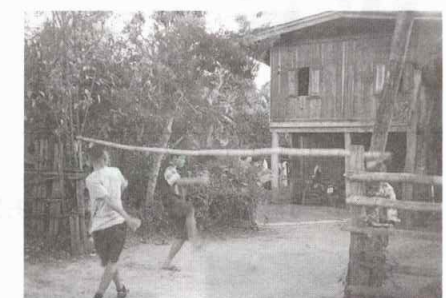
(中橋裕子 / 津市 / 看護学校生)



### 足でするバレーボール

初めてのセパタクローは楽しかった。初めは何も分からないので見ていた。体のどの部分を使っているか、立ち位置、一人何回また何回で返すか、だいたいわかればやりたくなる。十回程まではうまくいかなかったが、以降何とか返せるようになった。やっぱりうれしい。短い時間しかしなかったが、同じ個所で蹴り続けたので足が痛かった。今にして思うと、私は返すときの球が低かったようだ。球を返すときは高くあげることで少し間が抜けているように見えるが、こ

の間からいきなり大技をやるのが面白い。セパタクロー公式認定球は、探したが見つからなくて残念。日本に帰って規則を調べると、タイではかなり違反をしていたことがわかった。(内藤史裕 / 加西市)



## 〇月×日のPHD協会

職員 古本 神戸市内でカレンの布の展示会。その紹介で新聞記事に登場。それを見たお知り合いが会場にやってくる盛りに上がる。効果あり。

職員 芳田 研修旅行中、リンダ、ブンシーとお風呂に。なれなくて嫌がられるかと思いきや、二人は平気で、かえって彼女が恥ずかしがる。

職員 納堂 バレンタインデーあたりにボランティアのおじさまから紙袋を受け取る。あければチョコレート。意味をめぐってしばし業務中断。

職員 藤野 研修旅行の九州のお楽しみは、トン骨のラーメン。でもアフダールさんはイスラム教。彼用の唐揚げ弁当を買える店探しがまずは先。

職員 山西 若い職員からもらったカゼで一日ダウン。同じ菌でも症状に差があるのは何故なのでしょう。お大事に。

職員 伊藤 前職員から譲り受けた事務所の自転車盗難。荒ゴミで拾った次を直して乗るも、鍵付きなのにまた盗られ、外回りの足がない。

(寒がりの順)

## 草地さんを偲び “ボランティア” を考える本

阪神大震災と  
国際ボランティア論



草地賢一が歩んだ道

昨年1月亡くなられた当会の元総主事（当時姫路工業大学教授）の生前の功績を振り返る本「阪神大震災・国際ボランティア論―草地賢一が歩んだ道」ができあがりました。20人による寄稿に草地さんの文章、シンポジウムの記録を加えた5章構成、A5版240ページ。

お求めはPHD協会まで。価格1,890円（消費税込み）。プラス送料310円。お支払いは本をお送りする時に同封の振替用紙をお願いします。

### PHDオリジナル絵ハガキ

8枚組みで500円です。お問い合わせは事務所まで。



## 今年のスタディーツアーは

2001年度のスタディーツアーの概要が決まりました。詳細はお問い合わせ下さい。

### ・ネパール

7月下旬 約1週間 約21万円

### ・パプア・ニューギニア

8月上旬 約10日間 約25万円

### ・インドネシア、スマトラ

8月下旬 約10日間 約18万円

### ・タイ北部

12月下旬 約10日間 約19万円

編集協力：井上由美江、岡本佳織、奥西能彦、織田圭絵、柿原登志夫、原野紀久、野田多佳子

## 特定公益増進法人について

PHD協会へのご寄附に免税上の特典を与える特定公益増進法人（以下、特増法人）の資格継続について、2001年1月15日から2年の期間で兵庫県から認定を受けることができました。2000年9月に前回認定が終了するに合わせ、継続認定の準備を進めてまいりましたが、その期限に間に合わず、ご支援いただいている皆様にはご心配とご迷惑をおかけいたしました。

この場をお借りして、そのことにお詫び申し上げますとともに、改めて特増法人についてご説明したいと思います。これを機会にPHDの特増法人資格をご理解いただき、ご活用いただければ幸いです。

### 特定公益増進法人制度とは？

本来、国が税金を使って行なうような、公共の利益を著しく増進する活動をしている民間法人に、税法上で特典を与える制度です。

### なぜ、税法上の特典があるの？

そうした法人に対する寄附は、税金を納めているのと同様の意味がある訳です。そこで特増法人に寄附をした

場合、個人は確定申告で所得税の還付が受けられたり、企業はその寄附金を損金処理できるという特典が与えられているのです。

### どのような手続で認定されているの？

PHD協会は兵庫県認可の財団法人ですので、兵庫県から認定を受けています。しかし、認定には「担当大臣との協議が必要」と法律で定められています。そのため申請書類は県からPHDを所管する厚生労働省に渡り、最終的には厚生労働省と財務省が協議を行ないます。

### 公益法人制度の見直しとの関連は？

近年、公益法人に対する認定や監査の基準が厳しくなっています。実体の無い「幽霊法人」や、実際に公益の増進に寄与していない法人を整理するためには必要なことです。また、特増法人の認定を増やすことは、国庫への税収が減ることになりますから、国としてもいい加減な法人を認定する訳にはいきません。そうした影響を受け、特増法人の認定も年々厳しくなっています。

### 特定非営利活動法人（NPO法人）の税制優遇措置との関係は？

NPO法人の税制優遇措置の政府案は、特増法人制度を基礎に作られています。当会でもその原案と特増法人制度を比較してみました。優遇内容は特増法人制度の方が有利なようです。しかし、認定手続の複雑さは同等です。

現在、先の政府案に対して市民活動団体などが、優遇措置の改善や手続の簡素化について要求しています。しかし、法律上の整合性からも、特増法人制度が改定されない限り、NPO法人の優遇制度も変わらないのではないかと思います。

### 特増法人の特典は、所得税や法人税にしか使えないの？

相続財産を特増法人に寄附あるいは遺贈することで、寄附及び遺贈分が相続税の課税計算対象外になります。但し、この措置には、所定の手続が必要ですし、対象外となる場合もありますので、詳しいことは税理士か、税務署にお尋ねください。